

# たきおっ子

～一人一人が輝き、「笑顔」あふれる滝尾小～

御船町立滝尾小学校 学校だより  
第41号 令和3年2月12日(金)  
たきおっ子の生活信条：  
「たのしく、きたえて、おおらかに」  
学級数7、在籍児童数：55名  
文責：(校長) 河地浩太郎

## スクールライブラリー助成金交付



今週の火曜日に、公益法人公務員弘済会様から、図書購入の助成金として、金10万円をいただきました。さっそく図書担当の川西先生が手配をし、87冊の本を購入しました。(右のような本です。間もなく届きます。) 滝尾小の子どもたちはよく読書をしますので、そのことが認められての交付です。届いたら、さっそくみんな読んでほしいです。

〔購入図書名(一部)〕

- ・カテリーナとおにのフライパン
  - ・りこうな子ども
  - ・千びきおおかみ
  - ・プーカの谷
  - ・もりはおもしろランド(全15)
  - ・ごきげんなすてご
  - ・いっぽんくんのひとりごと
  - ・カンコさんのとくいわざ
  - ・しろくまさんのアンヨくん
- ★どれもおもしろそうです!

## 熊本県学力調査結果

昨年の12月に、3～6年生が国語と算数の2教科を実施した「熊本県学力調査」の結果が、2月1日にわかりました。学校全体の平均正答率を、全国の平均正答率や県の平均正答率と比較した結果が、右表のようになりました。全国平均と比べると、国語・算数ともわずかに上回っていましたが、県平均との比較では、算数がやや下回っていました。

この結果を学年別あるいは個人別に見てみると、やや差が見られるようでした。また、教科の領域や学習の観点別に見ても差があります。さらに、基礎的な部分と活用的な部分との比較では、「活用」に課題があるようです。今後、一人一人の結果を詳しく分析し、それに応じた復習プリント等を通して、学力の更なる定着をめざしていきます。※結果の個人票は、2/26(金)の授業参観の日にお渡しします。

全国平均を100とした場合の本校結果  
県平均を100とした場合の本校結果

|        | 国語       | 算数     |
|--------|----------|--------|
| 全国との比較 | 全国 100.0 | 100.0  |
|        | 本校 100.7 | 100.8  |
| 県との比較  | 県 100.0  | 100.0  |
|        | 本校 100.6 | ▲ 96.2 |

## 学校評価のお願い

本日、令和2年度下期(11月～2月)の本校教育活動に対する、保護者の皆様の学校評価のアンケート調査をお願いしています。(封筒を付けたアンケート用紙を配布)。調査内容は、9月にお願したものと同様です。

大変ご多様な毎日ですが、保護者の皆様の声を今後のよりよい滝尾小づくりに活かして参りますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

なお、提出は、2月19日を締切日とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

## コロナ対策の徹底を

熊本県独自の緊急事態宣言が、1月14日から2月7日まで出され、さらにそれが21日まで延長になっています。安心メールでもお知らせしましたが、県の警報レベルも最も高い「レベル5」です。その効果もあってか、新規の感染者数は次第に減ってきています。しかし、油断はできないと思います。今が、一番肝心な時期かもしれないと思います。今ひと頑張り感染予防に努めましょう。

## 「角度を変えて見てみよう」



【保健室前の掲示板】



上の写真は、今、保健室前に掲示してあるユニークな掲示物です。上の方には、左から見ると「角度を変えて」、右から見てみると「見てみよう」という文字が見えます。そして、その下には、例えば「失敗した…」というタイトルと、その下には左から見ると「経験値が上がった」、右から見てみると「次に生かすところが明確に」と読むことができます。

つまり、これは、マイナス的なことでも、見方によっては、プラスとなる見方に変えることができることを表しているのです。よく工夫されたものだと思います。私達も、子どもをいろいろな角度から見なければと思いました。

## 骨折して学んだこと

上益城郡 滝尾小学校

中 村 公 亮

あの日、ぼくは教室のベランダからひまわりを見ていた。ひまわりは、太陽の光を浴びて笑っているようだった。

「六時間目、始まるよ。」

と、声をかけられて教室に入ろうとすると、ちょうど友達がドアのところにいた。ぼくは、「ちょっと、どいて。」

と言って手をふった。それが、ドアの出っばりに当たったのだ。当たったしゅん間、とても痛かった。

「痛っ。」

と言いながら急いで席に座り、授業が始まった。六時間目はテストだった。テストを終えると、ドアに当たった手の甲のところが、ぱんぱんにふくれていた。たこ焼きが入っているくらいだった。ぼくは、びっくりして先生に言った。びっくりした先生と保健室に行く、保健の先生もびっくりしていた。すぐにお父さんが迎えに来てくれた。病院に行くと、骨折していることが分かった。

「やっぱり折れとったか。」

とお父さんが言った。ぼくは痛くて何も考え

られなかった。それから、もう一つの病院に行くことをすすめられた。その病院で、しっかり治すために手術をすることになった。ぼくは、「痛そうだな。」と思ったけど、「がんばろう。」と思った。なぜかという、ぼくはこの後にある、野球の大会に出ることになっていたので。早く治して、みんなと野球がしたかった。

学校で友達に手術することを言うと、みんなびっくりしていた。そして、「がんばってね。」

と言われて、うれしかった。

手術のために、前の日は絶食だった。入院のためにお父さんが仕事を休んで来てくれた。手術が終わって目が覚めた。麻酔で頭がボーッとしていた。寝ているぼくの足元に、お父さんとお母さんが座っていた。

「やっと目が覚めたね。」

とお父さんが言った。優しい声だった。ぼくは、何だかほっとした。お母さんは、プリンを買ってきてくれた。心配してくれているんだなと思った。

入院中は、お父さんとお母さんが毎日病院に来てくれた。退院して家に帰ると、おじいちゃん、

「だいじようぶだったか。」

と声をかけてくれた。ぼくは、みんなに心配をかけたなと思った。

ぼくは、けがをして痛かったけど、分かったことがある。まず、けがをしないように気をつけること。そのために周りに注意して行動したいと思う。それから、いろんな人に心配してもらって、ぼくは大事にされているということだ。心配をかけてしまった人たちに感謝の気持ちを伝えていきたいと思う。

♪ 自身に起こった骨折という出来事をただそれが起こったことで終わらないで、それを学びにつなげる公亮さんの感情や認識力の高さに感心しました。骨折してから手術までの様子も描写が見事で目に浮かびます。



(河) ケガや手術は痛かったと思うけど、家族の優しさがわかったり、これからの気をつけようという気持ちを持てたりしたことは、公亮さんのこれからの生活にプラスになると思います。